

平成20年度現地適応化試験報告書

モアラ（オオモンハタ）曳釣り漁業導入試験

南薩地域振興局 林務水産課

1 目 的

南薩地区の一部地域では時期的にモアラ釣り漁業が営まれているが、枕崎から坊津沖合にかけてのモアラの生息状況は判明していない。

今回、鹿児島湾や南薩の一部で操業している曳釣り漁業を導入し、試験操業を通して生息状況を把握するとともに漁業としての可能性を検討することを目的とした。

2 導入漁具 モアラ（オオモンハタ）曳釣り漁具

3 試験操業

- (1) 操 業 海 域 南九州市颯娃町沖から南さつま市坊津町沖
- (2) 漁 船 規 模 坊泊漁業協同組合所属船 4.8トン
- (3) 操 業 方 法

10月にかいぬい漁協所属船に乗船して得た知見を基に以下のとおり操業した。

- ①水深15m～30m前後の天然礁が点在している海域で、ジグヘッドに疑似のワームを付け4本の釣糸をそれぞれ道糸に結び、幹糸のビン打ちテグスに取り付け、魚探で瀬の状況と水深を確認し漁具を投した。
- ②船速を2～3ノットの微速に保ちながら釣りの部分が瀬から1m位の上を通過するよう常に幹糸を出し入れしながら操業した。漁具が底に着くと瀬掛かりし切れる可能性大であるから道具の調整はこまめに行った。

(4) 試験操業結果

10月、11月に南さつま市坊津沖から枕崎市沖を2回、12月に南さつま市坊津沖から南九州市颯娃町沖を1回、それぞれ朝から昼過ぎにかけて水深15mから30mの海域を操業したが、エソを計5尾釣っただけで、モアラを漁獲することはできなかった。

4 考 察

モアラの2kgサイズやヒラメも釣れるであろうと予想したが、残念ながら漁獲できなかった。海底の岩礁等との疑似餌の位置(水深)取りなど、まだ技術の習得が必要と思われる。

モアラは高値(2,000円～3,000円/kg)で取引されており、また、ロボットを用いた近隣の魚礁調査でも、モアラの蛸集が確認されていることから、今後も試験を継続して漁業としての可能性を検討する予定である。

乗船研修の状況



出港準備



幹系の調整指導状況



漁具説明及び操業準備



取り入れ



疑似餌取り付け実践



モアラ